

臨済禪師と達摩大師ゆかりの地参拝の旅 5日間

臨済禪師の祖庭・臨済寺と臨済院の旧跡ご参拝にご案内を致します。達摩大師の祖庭・少林寺と歴代住職墓塔のご参拝、ご希望の方には達磨大師が9年間お座りになられた『面壁九年』で知られる達磨洞にもご案内を致します。

1	各地空港 ⇒ 経由地 ⇒ 石家荘 空路、石家荘へ(経由便または北京より陸路移動) 【石家荘泊】
2	石家荘 市の北にある正定県に向かい臨済禪師の祖庭・臨済寺と 臨済院旧跡を参拝 随代に創建された隆興寺や天寧寺塔などを参拝 【石家荘泊】
3	石家荘 → 鄭州 → 登封 午前、市の南に位置する柏林寺を参拝と1,400年前に造られた 趙州橋を見学 石家荘市内に戻り、新幹線にて鄭州へ 少林寺の玄関となる登封へ 【登封泊】
4	登封 午前、達磨大師の祖庭・少林寺と歴代住職の墓塔・塔林参拝 午後、ご希望の方には面壁九年の達磨洞にご案内します。 (麓から徒歩で往復3～4時間の行程です。) 【登封泊】
5	登封 → 鄭州 ⇒ 各地空港 鄭州へ 空路、帰国の途へ(経由便) 入国手続き、税関の後、解散

少林寺

河南省登封県嵩山少室山北麓の五乳峰下にある寺院です。496年、孝文帝が天竺僧仏陀禪師のために創建したと伝えられ、達磨禪師が面壁九年して座禅したと伝えられる名刹です。

寺域は大きく、山門、客殿、大雄宝殿などの多くの堂宇があります。伽藍南西に二祖庵、五乳峰中腹に達磨洞があり、皇唐崇岳少林寺碑、唐太宗御書碑、息庵禪師行実之碑などが名高いものです。

前身は北周代に洛陽城内に宣帝が創建した陟岵寺で、隋の文帝代に、勅によって寺名を少林寺と改めました。

『魏書』巻114「釈老志」によれば、その創建は、496年(太和20年)で、孝文帝が西域沙門の仏陀禪師の住寺として、少室山陰に建立したとされています。



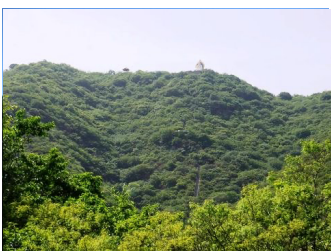
少林寺



塔林



少林寺千佛堂の壁画



達磨洞



隆興寺摩尼殿



隆興寺大悲閣



隆興寺転輪像閣



文廟



天寧寺塔遠景



天寧寺塔近景

臨済寺

中国の南北朝時代の東魏の孝静帝の興和2年(西暦540年)に建立されました。唐の時代、宣宗皇帝の大中8年(854年)に臨済義玄がこの寺に入り、禪宗のひとつ臨済宗を開くこととなります。懿宗皇帝の咸通8年(867年)に禪師は入寂しました。天子は慧照大師と諡し、「澄霊塔」と呼ばれるさ30.47mの琉璃瓦の端麗な青い九重の塔が建てられました。

この河北の地は、明・清の時代には北京に天子が君臨したため直隸省と呼ばれるようになり、直隸省下の寺院でしたが、1928年に中華民国の南京遷都により、河北省と呼ばれるようになりました。

その後、1985年には日本からの資金援助もあり境内の大規模な改修が行われ、現在に至っています。



臨済寺



臨済院旧跡

正定古城

石家荘郊外にある正定古城は1600年の歴史を持つ古鎮です。北齊から清代中期の文化芸術の中心地であったことでも知られています。なかでも臨済寺をはじめとして、隆興寺、開元寺、天寧寺、広惠寺など歴史的に重要な寺院があります。

隆興寺は正定古城を代表する建築物で、銅鑄の大仏で知られています。十字型を呈した摩尼殿や転輪像閣の回転式書架、大悲閣に安置された弥勒観音菩薩銅像など、宋代の貴重な仏教美術を集めた宝庫でもあります。